

構造的問題解決の方法論を学んでいる間、人は大抵、その煩わしさが発明的思考を邪魔することに悩む。

その後、方法論が潜在意識の中でなじむにつれて、ショートカットが形を現本稿は、構造的問題解決のショートカットに焦点を当てる。

われわれが十分な証拠を持っているのは、われわれの意識が問題を解くのではなく、潜在意識が解いている、ということである。

この認識がもたらす問題は、問題解決の手がかりをわれわれの意識からわれわれの無意識へどのようにして交信し、そこから返されてくるアイデアをどのようにして受信するのか、ということである。

ここに提起するのは、現行の構造化問題解決方法論の主要部分にある、制約的なロジックを取り除こうという議論である。

USIT(統合的構造化発明思考法)を例として用いる。

これは、論理的に訓練された技術者にとって、のむべき苦い薬というものであってはならない。

人が前に学習した問題解決方法論のいかなるものをも置き換えるものではなく、ある方法論を[十分に]マスターしてしまえば、人の論理的思考において第二の天性になっているヒューリスティクス構築物を除去あるいは減少させて、ショートカットを通ればよいのだと、それは薦める。

論理は、情緒的であいまいな手がかり(一ときには直観の詩的横暴のように思われるもの)の前に道を譲る。

迅速な問題解決の事例で、USITを簡略化した形で用いたものを二つ示す。解決策コンセプトの一つは、米国特許「シーソー要素を持った歩行者衝撃エネルギー管理デバイス」として実を結んだ。

問題とその解決策コンセプトは、問題解決において工学以前のフェイズに関係する。

このフェイズにおいては、すべてのコンセプトがふるいに掛けられることなく受け入れられる。

コンセプトの検証とモデル計算は、その後に行なわれる。

ふるいに掛けられていないコンセプトは、驚くべきアイデアの潜在的な源であ

「夢想ヒューリスティックスを用いた潜在意識問題解決」 Ed Sickafus (2014) 概要  
「札寄せ」による整理 (中川 徹、2015. 8.23) 1. 文単位での札の列挙 原文順

構造的問題解決の方法論を学んでいる間、人は大抵、その煩わしさが発明的思考を邪魔することに悩む。

その後、方法論が潜在意識の中でなじむにつれて、ショートカットが形を現す。

本稿は、構造的問題解決のショートカットに焦点を当てる。

われわれが十分な証拠を持っているのは、われわれの意識が問題を解くのではなく、潜在意識が解いている、ということである。

この認識がもたらす問題は、問題解決の手がかりをわれわれの意識からわれわれの無意識へどのようにして交信し、そこから返されてくるアイデアをどのようにして受信するのか、ということである。

ここに提起するのは、現行の構造化問題解決方法論の主要部分にある、制約的なロジックを取り除こうという議論である。

USIT (統合的構造化発明思考法) を例として用いる。

これは、論理的に訓練された技術者にとって、のむべき苦い薬というものであってはならない。

人が前に学習した問題解決方法論のいかなるものをも置き換えるものではない。

そうではなくて、ある方法論を[十分に]マスターしてしまえば、人の論理的思考において第二の天性になっているヒューリスティックス構築物を除去あるいは減少させて、ショートカットを通ればよいのだと、それは薦める。

論理は、情緒的であいまいな手がかり(一ときには直観の詩的横暴のように思われるもの)の前に道を譲る。

迅速な問題解決の事例で、USITを簡略化した形で用いたものを二つ示す。

解決策コンセプトの一つは、米国特許「シーソー要素を持った歩行者衝撃エネルギー管理デバイス」として実を結んだ。

問題とその解決策コンセプトは、問題解決において工学以前のフェイズに関係する。

このフェイズにおいては、すべてのコンセプトがふるいに掛けられることなく受け入れられる。

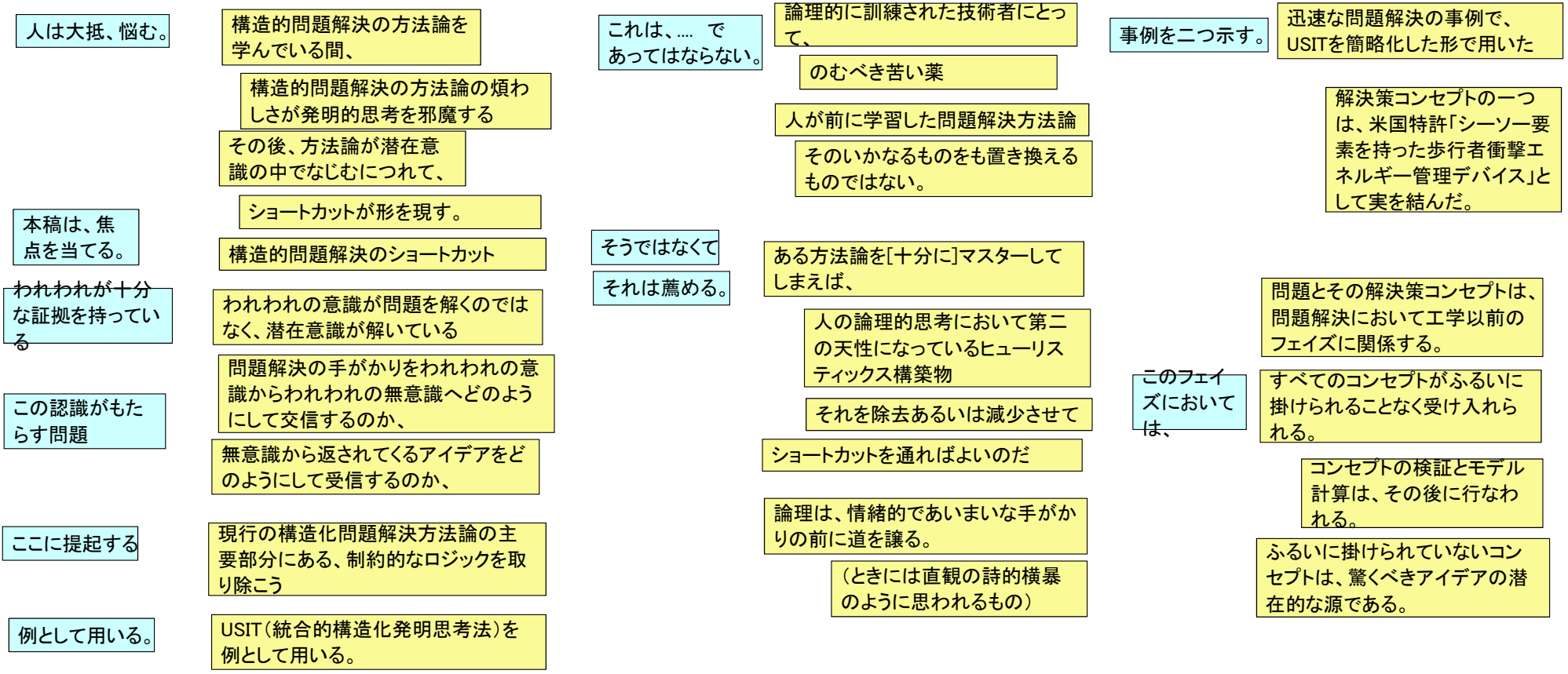
コンセプトの検証とモデル計算は、その後に行なわれる。

ふるいに掛けられていないコンセプトは、驚くべきアイデアの潜在的な源である。

# 「夢想ヒューリスティックスを用いた潜在意識問題解決」 Ed Sickafus (2014) 概要

## 「札寄せ」による整理 (中川 徹、2015. 8.23) 2. 文の論理単位への分割

注: 青札は、論理のつながりを示す



# 「夢想ヒューリスティックスを用いた潜在意識問題解決」 Ed Sickafus (2014) 概要

## 「札寄せ」による整理 (中川 徹、2015. 8.23) 3. 大まかな構造化

注: 青札は、論理のつながりを示す

注: 赤札は上位レベルでの記述 (多くは追加したもの)

問題解決の方法論では、「構造的な問題解決の方法論」が標準的である

問題提起: 「構造的な問題解決の方法論」の悩み

本稿の焦点

問題を論理的、意識的に解く。

人は大抵、

構造的な問題解決の方法論を学んでいる間、

考察すべき焦点: 「構造的な問題解決のショートカット」とは何か? それをどう評価するのか? それをどう利用するのか?

問題解決のプロセスを構造化し明示する。

構造的な問題解決の方法論の煩わしさが発明的思考を邪魔する

論理的に訓練された技術者にとって、  
のむべき苦い薬 ではない

注: 苦痛となるもの(再訓練、従来知識の否定など)ではない

その主要部には、制約的な(きちんと辿るべき)ロジックがある。

観察1: 上記の悩みは、なじむとショートカットが顕われて、一部解消される

評価: 「構造的な問題解決の方法論」を習得したうえでの方法として、積極的に使うのが良い。

人が前に学習した問題解決方法論

それを(長期間)学習し、訓練して、初めて使える。

その後、方法論が潜在意識の中でなじむにつれて、

それは薦める。

そのいかなるものをも置き換えるものではない。

訓練された技術者は、論理的に考えることが第二の天性になっている。

ショートカットが形を現す。

ある方法論を[十分に]マスターしてしまえば、

訓練によって、論理的思考のさまざまなヒューリスティックス構築物が頭の中のできている。

観察2: われわれの意識が問題を解くのではなく、潜在意識が解いている

利用する方法: 主たる考慮点:

ショートカットを通ればよいのだ

われわれは十分な証拠を持っている

この認識がもたらす問題

解決策コンセプトの生成に活用する

問題解決の手がかりをわれわれの意識からわれわれの無意識へどのようにして交信するのか、

人の論理的思考において第二の天性になっているヒューリスティックス構築物

問題解決の中心は、解決策コンセプトの生成であり、工学以前の段階。

(観察3: ショートカットとは、われわれの潜在意識による問題解決過程が顕われたものである。)

ここに提起する

無意識から返されてくるアイデアをどのようにして受信するのか、

それを除去あるいは減少させて

問題とその解決策コンセプトは、問題解決において工学以前のフェーズに関係する。

このフェーズにおいては、

すべてのコンセプトがふるいに掛けられることなく受け入れられる。

利用する方法: 具体的な方法の方針

現行の構造化問題解決方法論の主要部分にある、制約的なロジックを取り除こう

論理は、情緒的であまいな手がかりの前に道を譲る。

(ときには直観の詩的横暴のように思われるもの)

ふるいに掛けられていないコンセプトは、驚くべきアイデアの潜在的な源である。

例として用いる。

事例を二つ示す。

迅速な問題解決の事例で、USITを簡略化した形で用いた

解決策コンセプトの一つは、米国特許「シーソー要素を持った歩行者衝撃エネルギー管理デバイス」  
として実を結んだ。

コンセプトの検証とモデル計算は、その後に行なわれる。

USIT(統合的構造化発明思考法)を例として用いる。

# 「夢想ヒューリスティクスを用いた潜在意識問題解決」 Ed Sickafus (2014) 概要

注: 青丸は、論理のつながりを示す

## 「札寄せ」による整理 (中川 徹、2015. 8.23) 4. 仕上げ (囲み枠の利用、関係を線で表示)

